

日本保険学会 平成 23 年度第 2 回理事会議事録

●日時：平成 23 年 7 月 29 日（金）17：00～18：35

●場所：中央大学駿河台会議室

1．審議事項

（１）入退会者

江澤理事長より 入会者17名、退会者11名の説明があり、異議なく了承した。

（２）賛助会員

理事長より 社団法人日本損害保険代理業協会を新たに賛助会員としたいとの提案が行われ、異議なく了承した。なお賛助会費は年間 5 万円である。

（３）平成23年度大会・総会関係

福田大会企画部長および赤堀大会実行委員長から 現時点までの決定内容につき、以下のとおり報告があった。

本日まで、すべての報告者から報告テーマの通知があった。

本日開催の大会企画部会において、シンポジウムおよび共通論題の個別報告テーマが一部、全体テーマと乖離した名称となっているとの問題提起があったので、それぞれの司会者に対し、報告テーマの修正につき申し入れを行う。

会場については予定通り確保できる見込みである。近日中に最終決定する。

2 日目の個別報告の会場はいずれも十分なキャパシティがあるので問題はない。これらにつき、了承した。

なお、事務局より、上記 につき最終確認の上 所要の修正を行ってから、8 月末に全会員あてに大会・総会案内として出状したいとの提案があり、これを了承した。

（４）平成22年度事業報告書（案）

理事長より 事務局作成の平成22年度事業報告書（案）については、5 月理事会に提出されたが時間の関係もあって審議せず、各自持ち帰り意見がある場合は、事務局まで連絡することとしていた。特段の意見がなかったので、これにて承認願いたいとの提案があった。特段の異議なく 原案どおり承認された。

この内容でホームページに掲載し、10月の学会総会において最終承認されることになる

（５）名誉会員推薦

理事長より「名誉会員推薦基準に関する理事会申し合わせ事項」（平成16年5月28日、理事会決定）に基づき、下記の 2 先生を名誉会員に推薦したい旨、提案があった。

- ・ 森宮 康 （明治大学教授）
- ・ 大谷 孝一（早稲田大学教授）

とくに異議なく了承し、10月総会に諮ることになった。

あわせて理事長より、他に候補者はいないと思われるが、もしあれば事務局あて連

絡願い、9月理事会に諮りたいとの依頼があった。

(6) 会務分担委員の変更

理事長より会務分担委員を以下のとおり、変更したいとの提案があった。

關西部会

部会長 旧：羽原理事 新：井口理事

部会委員 旧：岡田（豊基）理事 新：安井評議員

編集委員会

委員長 旧：井口理事 新：中浜理事

特に異議なく この変更を承認した。

(7) 保険学雑誌「査読料」「書評謝礼金」変更

中浜編集委員会委員長より、「査読料」および「書評謝礼」を変更したいとの提案があった。これに伴う経費増は年間7万円程度とのことである。

特に異議なく この提案を承認した。

(8) 第1回日本保険学会賞

押尾 学会賞選考委員会委員長より、本日開催された学会賞選考委員会において第1回日本保険学会賞を以下のとおり選出したとの報告があった。

日本保険学会賞（論文の部）2点：

- ・ 深見泰孝（滋賀大学経済学部附属リスク研究センター）
「仏教系生保の破綻について---日宗生命破綻を中心に---」（保険学雑誌610号掲載）
- ・ 後藤 元（学習院大学）「法律の適用・解釈における保険概念の役割」
（保険学雑誌 609号掲載）

日本保険学会賞（著書の部）1点：

- ・ 長谷川千春（同志社大学）「アメリカの医療保障---グローバル化と企業保障のゆえ」
（昭和堂刊 2011年刊）

この表彰内容につき 了承した。なお、会員に対する結果報告ならび表彰式は大会総会時に行うこととした。受賞会員には、事務局より 内々に事前連絡を行う。

(9) 企画委員会関連

理事長(企画委員会委員長)より、本日開催された第9回企画委員会において、「役員等候補者選考委員会」委員候補者として 以下6名を選出したとの報告があり、これを了承した。この委員会は来年10月総会時の役員改選に際して、新理事、新評議員を選出する委員会であり、委員候補者は10月総会にて承認を得る必要がある。

(敬称略)

- ・ 理事： 甘利公人、押尾直志、洲崎博史
- ・ 評議員：岡田 太、田爪浩信、安井敏晃

2. 報告事項

(1) 委員会等報告

国際交流委員会

福田委員長代理より、APRIA東京大会(7月31日—8月3日)の直前の準備状況ならびに7月4日に行われた国際交流委員会の内容につき、韓国学会との交流、中国学会との交流を中心に披露があった。また、石田評議員の韓国保険学会大会派遣報告が配布された。

なお、韓国学会とは、従来は大会時の懇親会終了後、夕食会を開いていたが、日韓双方の負担が大きいため、2年前に中止した経緯にある。本件に関し、今年は懇親会終了後、簡単な二次会を実施することにつき了承を得たいとの提案があり、異議なく承認した。費用面では総額3万円程度を想定している。

関東部会

- ・ 福田理事より、関東部会の来年3月部会は、特別部会として「東日本大震災1周年シンポジウム」を3月10日(土)に損保会館で行う計画であるとの報告があった。当初、学会の臨時大会として行うというアイデアもあったが 本日の大会企画部会での論議の結果、関東部会が主体となって実施することに決定したものである。
- ・ 東日本大震災はそのインパクトからみて、来年度大会でとりあげるのにふさわしいテーマであるが、まずは関東部会で研究会を行うこととしたものである。そのうえでテーマを掘り下げて、大会の場で論議することになる。関西部会および九州支部でも同様なテーマで実施したらどうか、との提案があった。
- ・ シンポジウム開催にはそれなりの費用がかかると見込まれる。実施にあたり学会からの補助を求める場合には、9月理事会において 関東部会から提案を行い、要すれば本年度学会予算案の修正もすべきではないか、との意見があった。
- ・ 次いで甘利部会長より、次回9月9日(金)の関東部会は、通算200回の記念例会となるので、例会終了後に懇親会を行う予定である、との披露があった。関東部会は、昭和26年(1951)年4月に開始され、ちょうど60年間で200回を達成したものである。関東部会ではこれを記念して、部会の実施記録をまとめた小冊子の作成を準備しているとの報告があった。

関西部会・九州支部

羽原前部会長より、6月18日に開催された例会内容の報告があった。

また、松下事務局長より、九州支部が7月23日に福岡大学で行った例会の内容につき報告があった。

ホームページ委員会

明田委員長より、今後、学会英文ホームページの充実化を進める予定であるとの報告があった。

編集委員会

中浜委員長より、大会、部会報告の「保険学雑誌」掲載状況につき報告があった。

企画委員会

理事長より、本日の企画委員会において、「企画委員会規則」(案)についての2回目の論議を行ったとの報告があった。

(2) その他

理事長より、理事・監事に対し、学会員の入会勧奨を積極的をお願いしたい、との要請があった。入会申込書には申込者の捺印は不要であるので、入会申込書を常時携帯することが有効であるとのことであった。

以 上